

本山コレクション金石文拓本

本山コレクションは、大阪毎日新聞社 5 代目社長本山彦一氏が収集した、日本でも有数のコレクションである。関西大学には、博物館に考古資料や歴史資料が、総合図書館に本山氏の蔵書が収められている。

本山コレクションには、2300 点に及ぶ金石文拓本がある。金石文とは、墓碑や石碑などの石造物、刀剣や梵鐘などの金属製品に刻まれた文字資料である。本山コレクションの金石文拓本の大部分は、『大日本金石史』を著した木崎愛吉（好尚）氏が、明治末年から大正時代にかけて収集したものである。

今回の展示では、木崎氏旧蔵の金石文拓本のうち、古代から近世の大阪にゆかりのある人物やことさらに焦点をあてた。「なにわ・大阪の文化力」を、金石文拓本を通して感じ取っていただければ幸いである。

1. 本山コレクションと木崎愛吉旧蔵拓本

本山彦一（1853～1932）は、熊本藩の出身。藩校時習館で学んだのち、上京して福澤諭吉に師事した。大阪新報社、大阪藤田組支配人を経て、明治 36 年（1903）に大阪毎日新聞社社長に就任。それまで政論が中心であった新聞を大衆の読み物とし、販売網を拡大した。学術面での貢献も大きく、自然科学や考古学などで多くの足跡を残している。

昭和 5 年（1930）に、東京人類学会会長神田孝平のコレクションを譲り受けたのを機に、収集品の整理に着手した。その際に、本山から指名されたのが、末永雅雄（1897～1991）である。本山は、堺市浜寺の自宅隣接地に富民協会農業博物館を建設。その一室を「本山考古室」と名づけ、彼の収集品を陳列・公開したが、末永は、本山考古室に通い、その整理と調査にあたった。国の重要文化財に指定されている河内国府遺跡出土の玦状耳飾などの考古資料は、末永がまとめた『富民協会農業博物館本山考古資料室目録』や『富民協会農業博物館本山考古資料室図録』に収められ、広く知られているが、木崎愛吉旧蔵の金石文拓本の存在はあまり知られていない。

木崎愛吉の金石文研究

木崎愛吉（1865～1944）は、大坂南組農人橋材木町（大阪市中央区材木町）の出身で、小学校教諭や大阪朝日新聞社の記者として活躍する。幼い頃から大坂の町人学者の墓所を訪ね歩き、明治 23 年（1890）には磯野秋渚と「浪華墓跡考」を著したほか、大阪市内にある墓碑を踏査するために「浪華撫古会」を結成した。こうした活動で得た成果は、大正 3 年（1914）に『摂河泉金石文』、大正 10 年から翌 11 年にかけて『大日本金石史』・『大坂金石史』として大成された。本山コレクションの木崎旧蔵金石文拓本は、これらの著作のもととなったものである。木崎が収集した金石文拓本には、現在風化や剥落の被害を受けている金石文のものが多く、貴重な歴史資料であるといえる。

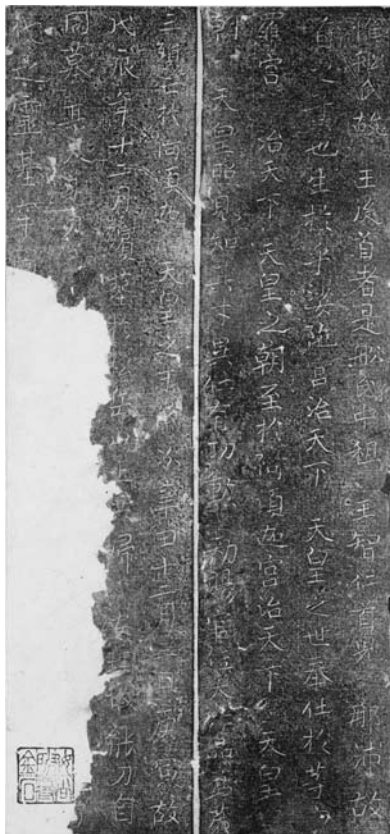
本山コレクションと木崎愛吉旧蔵拓本

木崎愛吉旧蔵の金石文拓本が本山コレクションに加わった背景には、『大日本金石文』とそれに続く『大坂金石史』の出版が関わっているとみられる。当時、木崎は、相当な資金難であった。蔵書を売却して出版資金を捻出しようとするが、それでも足らず、自らが収集した金石文拓本を手放す決意をする。そこへ、一括して譲り受けたいとする「篤志の人士」を紹介され、木崎がいつでも借覧できるという好条件で、その人物に売却した。この「篤志の人士」が本山彦一であったとみられる。本山による一括購入のおかげで、木崎旧蔵の金石文拓本が今に伝わっているのである。

2. 古代・中世の金石文拓本

古代の大阪には、中国や朝鮮半島からの渡来系の人びとが多く暮らし、彼の地の優れた先進技術や文化を伝え、わが国に根づかせていった。彼らの多くは都で活躍し、死後は、出身地である大阪近郊に葬られた。高槻市や南河内^{かわちいもじ}一帯からは、彼らの墓地に収められた墓誌が出土している。

中世の大坂では、「河内^{かわちいもじ}鑄物師」の活躍が有名である。彼らは、河内国丹南郡（堺市美原区周辺）を中心に、寺院の梵鐘（釣鐘）などの大型製品から日常品まで、さまざまな金属製品の製作に関わっていた。「河内鑄物師」の伝統技術は、今なお大阪に生き続けている。



1

1 船王後墓誌銘拓本

縦 29.0 cm 横 13.9 cm

船王後の墓誌は、江戸時代に大阪府柏原市大字国分の松岡山（松岳山）から出土したと伝えられ、昭和 36 年（1961）に国宝に指定される。銘文には、百済系の渡来人である船王後の出自・経歴・没年・埋葬の経緯が記されている。製作年代は、7 世紀末から 8 世紀初めとされる。

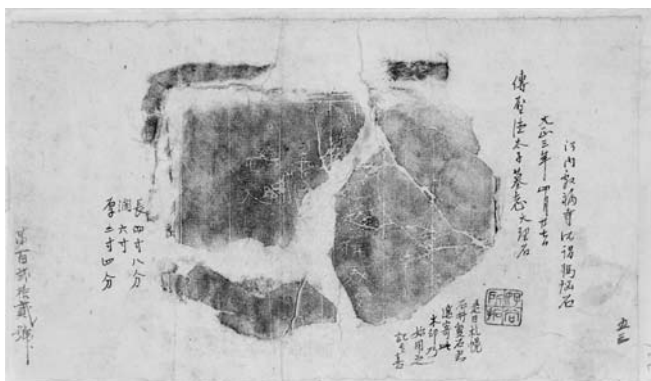
拓本の後ろ二行は破損しており、判読できない。

2 伝聖徳太子墓誌銘拓本

縦 14.4 cm 横 18.6 cm

伝聖徳太子墓誌は、『古事談』などによると、河内国石川郡磯長（大阪府南河内郡太子町）の聖徳太子墓から、天喜年間（1053～1058）に発見されたとある。現在は、太子町の叡福寺所蔵である。

木崎旧蔵の拓本には「好尚所拓」などの落款が捺されているが、その印が札幌の石井雙石の作で、この拓本に初めて捺されたことがわかる。



2



3

3 石川年足墓誌銘拓本

縦 29.0 cm 横 10.2 cm

石川年足の墓誌は、文政3年（1820）に摂津国嶋上郡真上光徳寺の荒神山（大阪府高槻市月見町）で発見され、現在国宝に指定されている。

年足は、出雲守・中納言などを歴任し、天平宝字2年（758）に藤原仲麻呂が官号を唐風に改める際に関わるなど、仲麻呂の側近として活躍した。



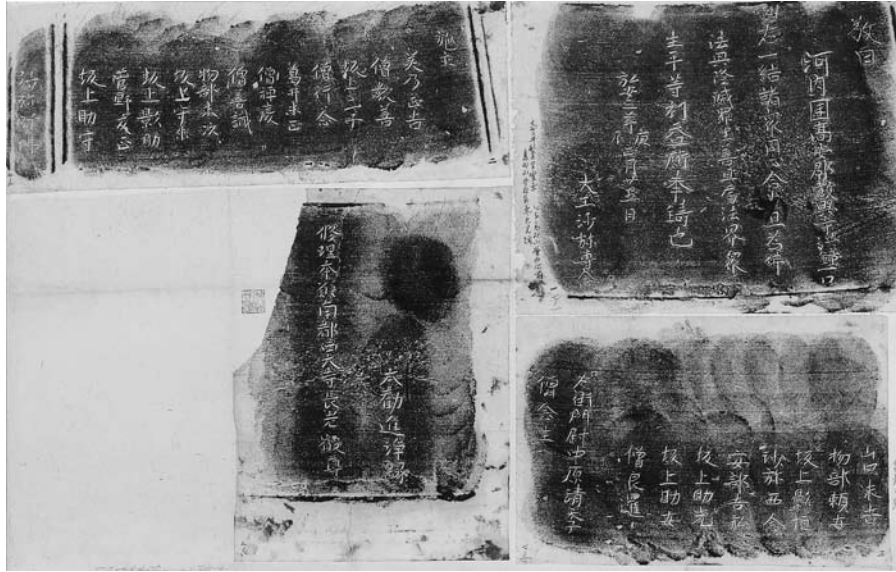
4

4 高屋枚人墓誌銘拓本

縦 25.4cm 横 17.5cm

高屋枚人の墓誌は、大阪府南河内郡太子町の丘陵斜面より、延享元年（1744）に発見されたと伝えられる。現在は、太子町の叡福寺に所蔵され、重要文化財に指定されている。

高屋枚人は、河内国古市郡高屋（羽曳野市古市付近）を本貫地とし、銘文からは常陸国大目^{だいしかん}であったことがわかる。



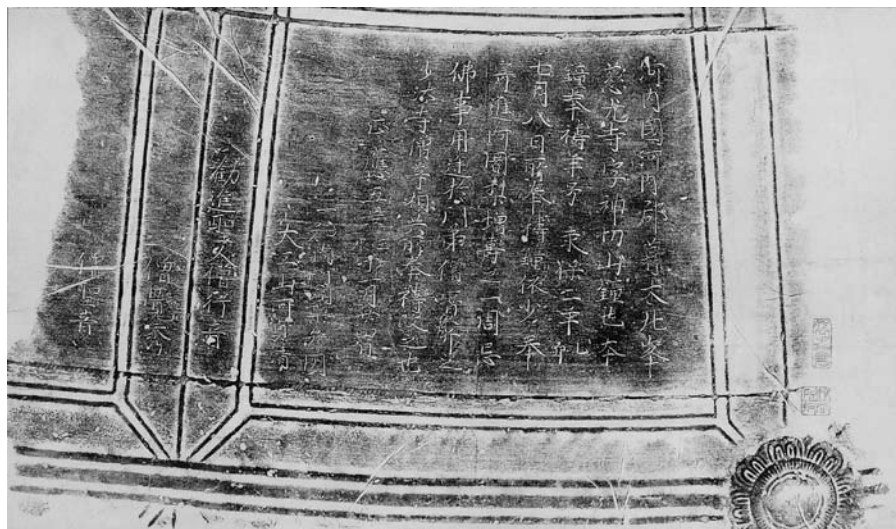
5

5 金剛峯寺鐘銘拓本

第一紙 縦 26.8cm 横 34.0cm 第二紙 縦 15.2cm 横 42.9cm

第三紙 縦 21.2cm 横 31.8cm 第四紙 縦 31.8cm 横 42.8cm

もと河内国高安郡（八尾市）教興寺の梵鐘。銘文からは、弘安3年（1280）正月25日、南都西大寺叡尊の発願と僧浄縁の勧進で、23人の一結衆が鑄造したものとわかる。「大工専念」は河内鑄物師の一人。現在、梵鐘は高野山霊宝館で展示されている。



6

6 慈光寺鐘銘拓本

縦 34.7cm 横 59.8cm

慈光寺は、東大阪市東豊浦町にある。1300年前に役行者によって開基されたと伝えられ、修験道の道場として栄えた。梵鐘は、東大阪市内最古のものとされる。

銘文には、永保2年（1082）に鑄造した鐘が小さいために、正応5年（1292）に増寿阿闍梨の一周忌に際し、弟子実弁らが寄進したとある。

3. 近世の金石文拓本

近世を代表する「なにわ・大阪の文化力」は、芸能と文芸であろう。

道頓堀には八軒の芝居小屋がたちならび、浄瑠璃や歌舞伎が上演され、多くの人びとを魅了した。人形浄瑠璃では、17世紀後半に竹本義太夫が出て、道頓堀に竹本座を旗揚げし、歌舞伎の世界では、坂田藤十郎・片岡仁左衛門（初代・七代）・中村歌右衛門（初代・三代）らが一世を風靡した。

文芸では、井原西鶴・近松門左衛門らを輩出した。西鶴は『好色一代男』などを著し、近代小説の先駆けとなる浮世草子を生みだし、近松は『世継曾我』・『曾根崎心中』などの脚本を手がけ、「日本のシェイクスピア」とも呼ばれている。



(正面)



(背面)



(台石)

7 近松門左衛門夫妻墓碑拓本

正面 縦 49.3cm 横 21.3cm

背面 縦 42.5cm 横 21.8cm

台石 縦 35.5cm 横 49.1cm

近松門左衛門は、承応2年（1653）に越前藩士の次男に生まれる。早くから傑出した文才をもち、天和3年（1683）に『世継曾我』を発表。竹本義太夫にこれを提供した。『冥土の飛脚』・『曾根崎心中』など多くの脚本を世に送り出した。

墓は、広済寺（尼崎市）と法妙寺跡（大阪市中央区）にあるが、本拓本は、木崎の書き込みから法妙寺のものであることがわかる。

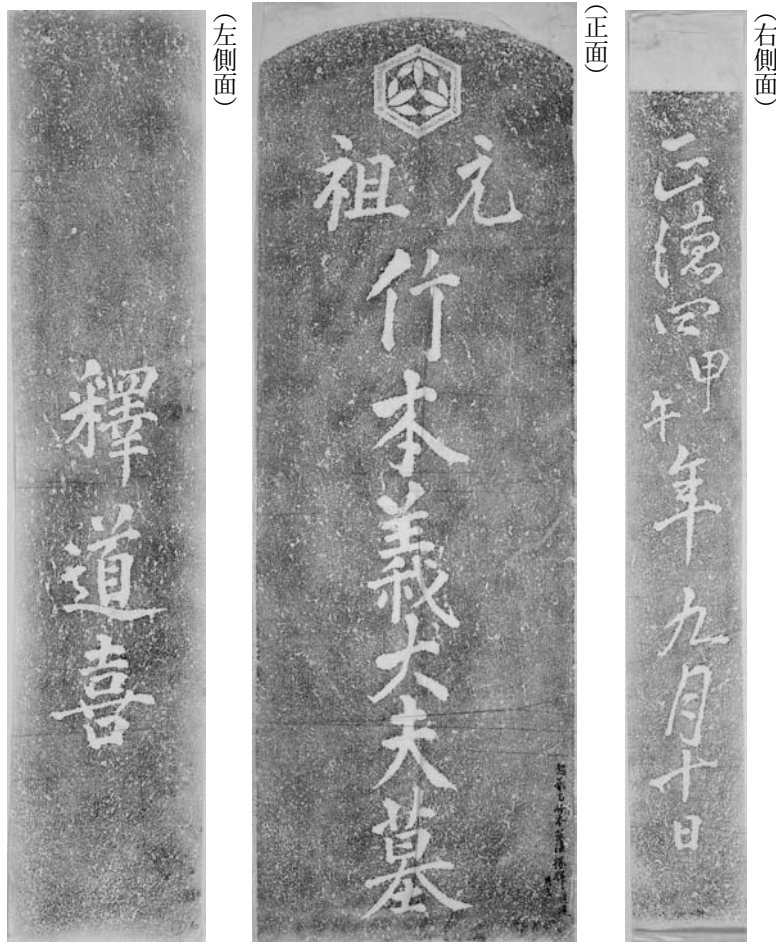
8 坂田藤十郎墓碑銘拓本

縦 25.0cm 横 52.5cm

坂田藤十郎は、大坂荒木座で『夕霧名残の正月』の伊左衛門役を演じて名声を高める。元禄6年（1693）頃からは近松門左衛門の作を多く演じるようになり、上方歌舞伎の和事をつくりあげた。大阪市天王寺区の四天王寺の北墓地、元三大師堂西にある墓は、大正8年（1919）に有志によって建てられた。



8



9

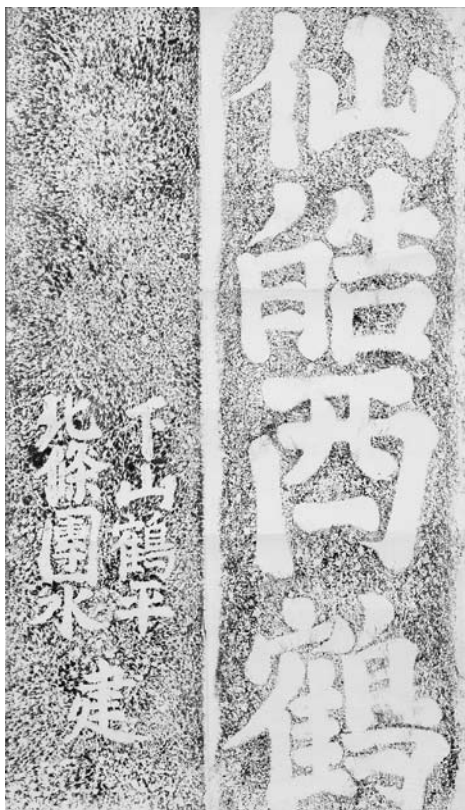
9 初代竹本義太夫墓碑拓本

（正面） 縦 96.5cm 横 32.5cm

（左側面） 縦 95.5cm 横 12.0cm

（右側面） 縦 34.6cm 横 17.5cm

初代竹本義太夫は、天王寺村の生まれ。道頓堀に竹本座を創設するなど人形浄瑠璃発展の主導的役割を果たした。豪快な語り口から艶やかな語り口まで、その芸域は広い。墓は、超願寺（大阪市天王寺区）にあるが、墓石の傷みが激しく、この拓本によって銘文の全容がわかる。

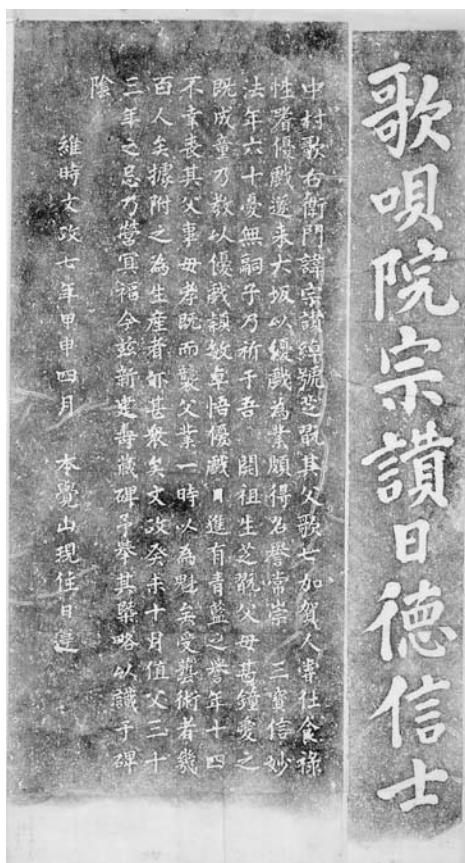


10

10 井原西鶴墓拓本

縦 68.5cm 横 39.4cm

井原西鶴は、大坂の富裕な商家に生まれる。幼い頃から俳諧を始め、のちに西山宗因に師事し、談林派の代表的俳人として知られる。『好色一代男』発表後は、浮世草子作者としても活躍し、多くの作品を残した。墓は、誓願寺（大阪市中央区）にあり、大阪市指定文化財および大阪市史跡顕彰碑に指定されている。



11

11 中村歌右衛門（三世）墓碑銘拓本

縦 94.5cm 横 47.7cm

三世中村歌右衛門は、初世中村歌右衛門の実子。屋号は加賀屋。寛政3年（1791）に歌右衛門を襲名。一時、中村芝翫を名乗る。小柄でしゃがれた声だったが、工夫に富んだ芸で人気を博した。

墓は、日蓮宗正法寺（大阪市中央区）にある。墓石の傷みが進み、判読困難な文字もあり、拓本によって銘文の内容がわかる。

史料7 近松門左衛門夫妻墓碑拓本

(正面) 阿耨院穆矣日一具足居士

一珠院妙中日事信女

(背面) 享保九甲辰年十一月一日
(台石) 施主

近松氏

正七

【落款】

「好尚所藏金石」〔朱文方印〕

【添書】

「法妙寺近松巢林子碑 其三」

史料8 坂田藤十郎墓碑銘拓本

寶永六年十一月一日歿

坂田藤十郎

重譽一室信士

史料9 初代竹本義太夫墓碑拓本

(正面) (義太夫の家紋) 元祖竹本義太夫墓

(右側面) 正徳四甲午年九月十日

(左側面) 釋道喜

【落款】

「好尚所藏金石」〔朱文方印〕

【添書】

「超願寺竹本筑後掾碑 追建／廿三」

史料10 井原西鶴墓拓本

(正面) 仙皓西鶴

(左側面) 下山鶴平 建
北條團水

史料11 中村歌右衛門(三世)墓碑銘拓本

(正面) 歌唄院宗讚日徳信士

(背面) 中村歌右衛門諱宗讚綽號芝翫其父歌七加賀人嘗仕食禄

性嗜優戲遂來大坂以優戲為業頗得名譽常崇 三寶信妙

法年六十憂無嗣子乃祈于吾 開祖生芝翫父母甚鐘愛之

既成童乃教以優戲穎敏卓悟優戲□進有青藍之譽年十四

不幸喪其父事母孝既而襲父業一時以為魁矣受藝術者幾

百人矣據附之為生産者亦甚衆矣文政癸未十月值父三十

三年之忌乃營冥福今茲新建壽藏碑予舉其槩略以識于碑

陰

維時文政七年甲申四月 本覺山現住日遵

【裏書】

「大阪市東区高津中吉町正法寺 初代中村歌右工門碑」

弘安三年庚辰正月廿五日

大工沙弥専念

施主

美乃正吉

僧教善

坂上三子

僧行念

葛井末正

僧禅慶

僧善識

物部末次

坂上守末

坂上影助

菅野友正

坂上助守

沙弥賀佛

山口末吉

物部頼安

坂上影恒

沙弥西念

安部吉弘

坂上助光

坂上助安

僧良暹

左衛門尉中原清季

僧念生

大勧進浄縁

修理本願南都西大寺長老叡尊

【落款】

「好尚所藏金石」〔朱文方印〕

【添書】

「大正三年秋季皇靈祭 今在高野山案内所前」

「高野山井村真琴君見贈」

史料6 慈光寺鐘銘拓本

河内國河内郡葛木北峯

慈光寺字神切山鐘也本

鐘奉禱年号 承保二年乙卯

七月八日所奉禱鐘依少奉

寄進阿闍梨増壽之一周忌

佛事用途於門弟僧實弁之

沙汰寺僧等相共所奉禱改之也

正應五年壬辰十一月廿四日

一和尚阿闍梨弁円

大工山河貞清

勧進聖人僧行音

僧覚秀

僧聖音

【落款】

「好尚手拓金石」〔好尚所拓〕〔朱文方印〕

4. 拓本翻刻

史料1 船王後墓誌銘拓本

惟船氏故　王後首者是船氏中租　王智仁首兒　那沛故
首之子也生於乎娑陁宮治天下　天皇之世奉仕於等由
羅宮　治天下　天皇之朝至於阿須迦宮治天下　天皇之
朝　天皇照見知其寸異仕有功勲　勅賜官位大仁品爲第
三殞亡於阿須迦　天皇之末歲次辛丑十二月三日庚寅故
戊辰年十二月殯墓於松岳山上供婦　安理故能刀自
同墓其大兄刀

（羅古首之墓並作墓也即爲安保萬）

代之靈墓牢固

（永却之實地也）

【落款】

「好尚所藏金石」〔朱文方印〕

史料2 伝聖徳太子墓誌銘拓本

☐ ☐ (今年歲次) **辛巳**
☐ ☐ (地尤) **足稱美** ☐ (故)
于 ☐ ☐ (四百三十餘)
王大臣 ☐ ☐ (發起寺)

【落款】

「好尚所拓」〔朱文方印〕

【添書】

〔河內叡福寺所謂瑪惱石／大正三年四月廿七日／傳聖德太子墓志 大理石〕
〔是日札幌／石井雙石君／遙寄此／木印乃／始用之／記是喜〕
〔長 四寸八分／濶 六寸／厚 二寸四分〕

史料3 石川年足墓誌銘拓本

武內宿祢命子宗我石川宿祢命十世孫從三位行左太
辨石川石足朝臣長子御史大夫正三位兼行神祇伯年
足朝臣當平成宮^城御^御宇天皇之世天平寶字六年歲次壬
寅九月丙子朔乙巳春秋七十有五薨于京宅以十二月
乙巳朔壬申葬于攝津國^船郡白髮鄉酒垂山墓礼也^上
儀形百代冠蓋千年夜臺荒寂松柏含^煙呼哀哉^鳴

【落款】

「好尚所藏金石」

史料4 高屋枚人墓誌銘拓本

故正六位下常陸國
大目高屋連枚人之
墓寶龜七年歲次丙
辰十一月乙卯朔廿
八日壬午葬

【落款】

「好尚所拓」 「好尚所藏金石」 「朱文方印」

史料5 金剛峯寺鐘銘拓本

敬白

河内国高安郡教興寺洪鐘一口
右一結諸衆同心合力且為佛
法興隆滅罪生善且為法界衆
生平等利益所奉鑄也